



2024年度第1四半期 決算リリース

ロイヤル・バンク・オブ・カナダ、2024年度第1四半期決算を発表

以下に示す金額はすべてカナダドル建てで、特に断りのない限り、国際会計基準第34号「中間財務報告」に従って提出された財務書類に基づいています。2023年11月1日より、当行は国際財務報告基準第17号「保険契約」(IFRS 17)を導入しました。比較される金額は以前に提示されたものから書き換えられています。なお、便宜上記載されている日本円への換算は、1カナダドル=110.73円(2024年3月1日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場中値)により計算されています。当行の2024年度第1四半期の株主報告書および補足財務情報につきましては、<http://www.rbc.com/investorrelations> および <https://www.sedarplus.ca> をご覧ください。

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 純利益 36億ドル 前年比14%増 | 希薄化後EPS¹ 2.50ドル 前年比12%増 | 合計PCL² 8.13億ドル 貸出債権のPCL比率 ³ は 前期比3bps ⁴ 上昇 | ROE⁵ 13.1% 前年比50bps上昇 | CET1比率⁶ 14.9% 規制上の所要水準を 上回る |
| 調整後純利益⁷ 41億ドル 前年比5%減 | 調整後希薄化後EPS⁷ 2.85ドル 前年比6%減 | 合計ACL⁸ 57億ドル 貸出債権のACL比率 ⁹ は 前期比3bps上昇 | 調整後ROE⁷ 14.9% 前年比230bps低下 | 調整後LCR¹⁰ 132% 前四半期の131%から 上昇 |

【トロント、2024年2月28日】ロイヤル・バンク・オブ・カナダ¹¹(トロント、ニューヨーク両証券取引所のティッカーはRY)は本日、2024年度第1四半期(2023年11月1日~2024年1月31日)の純利益がカナダ復興配当(CRD)および他の税金関連調整の10.50億ドルの影響を含め、前年同期の実績から4.49億ドル(約497億円)、率にして14%増加し、36億ドル(約3,986億円)になったと発表しました。希薄化後EPSは2.50ドルで、この間に12%増えました。調整後純利益⁷は41億ドル、調整後EPS⁷は2.85ドルと、前年同期に比べて5%、6%それぞれ減少しました。

当四半期の連結業績は合計PCLが前年同期の実績から2.81億ドル増えたことを反映しています。パーソナル&コマーシャル・バンキング、キャピタルマーケット両部門の繰り入れ拡大が主な背景でしたが、ウェルスマネジメント部門の繰り入れ縮小によって部分的に相殺されました。貸出債権のPCL比率は前年同期に比べて12bps上昇の37bpsとなりました。不良債権のPCL比率¹²は繰り入れが金利上昇と失業増加の影響を映して拡大傾向を続けた中、31bpsと前年同期の水準から14bps上昇しました。

業績はまた、HSBCバンク・カナダ(HSBCカナダ)の買収予定に関連した特別項目の影響を反映しました。特別項目は取引および統合費用(税引前2.65億ドル、税引後2.18億ドル)と期末資本変動の管理(税引前2.86億ドル、税引後2.07億ドル)を含みます。税引前で1.59億ドル(税引後で1.15億ドル)という米連邦預金保険公社(FDIC)特別保険料の負担も業績に影響しました。

貸倒引当金繰入前・税引前利益⁷は52億ドルと、前年同期の実績から6.07億ドル、率にして11%減少しました。費用の増加、および前年同期の実績が好調だった反動によるトレーディング収益の減少などを反映したキャピタルマーケット部門の減収が主因でした。これらの要因は、IFRS 17への移行に備えたポートフォリオのポジション調整で好ましい投資パフォーマンスが実現したことに伴う保険料運用実績の改善によってある程度打ち消されました。業績は、堅調な業量の伸びに牽引された純金利収入の増加、およびウェルスマネジメント部門における相場上昇と純販売を映した手数料ベースの顧客の資産拡大から恩恵を受けました。

¹ 株利益 (EPS)。

² 貸倒引当金繰入額 (PCL)。

³ 貸出債権のPCL比率は、貸出債権のPCLの平均純貸出金および引受手形に対する割合として計算されています。

⁴ ベースポイント (bps)。

⁵ 自己資本利益率 (ROE) は普通株主に帰属する純利益を平均普通株主資本で除して計算されています。追加の情報につきましては、本決算リリース (英語版) 3~5 ページの「主要な業績指標と非 GAAP 財務指標」のセクションをご参照ください。

⁶ この比率は、金融機関監督庁 (OSFI) のパーゼル3自己資本比率規制 (CAR) ガイドラインに従い、普通株式等 Tier1 (CET1) をリスク加重資産 (RWA) で除して計算されています。

⁷ これらは GAAP に基づかない財務指標です。会計調整を含む追加の情報につきましては、本決算リリース (英語版) 3~5 ページの「主要な業績指標と非 GAAP 財務指標」のセクションをご参照ください。

⁸ 貸倒引当金 (ACL)。

⁹ 貸出債権のACL比率は、貸出債権のACLの総貸出金および引受手形に対する割合として計算されています。

¹⁰ 流動性カバレッジ比率 (LCR) は OSFI の流動性比率規制 (LAR) ガイドラインに従って計算されています。さらなる詳細につきましては、当行の 2024 年度第 1 四半期株主報告書の「流動性と資金調達リスク」のセクションをご参照ください。

¹¹ “we”, “us”, “our” (日本語では「当行」)、あるいは“RBC”という言葉は、場合に応じて、ロイヤル・バンク・オブ・カナダとその子会社を意味します。

¹² 不良債権のPCL比率は不良債権のPCLの平均純貸出金および引受手形に対する割合として計算されています。

前四半期との比較では、純利益は 9%減少しました。前四半期の業績に繰延税金調整に関連した特別項目の好影響が含まれていた反動による実効税率の上昇や、不良債権の PCL の拡大などが背景にありました。コーポレートサポート、パーソナル&コマーシャル・バンキング両部門の減益は、ウェルスマネジメント、キャピタルマーケット、インシュアランス各部門の増益によって部分的に相殺されました。調整後純利益⁷は同じ期間に 8%増加しました。貸倒引当金繰入前・税引前利益⁷は、収益の増加が経費の伸びを打ち消して余りあるものだったことから、12%増となりました。

当行の自己資本状況は CET1 比率⁶が 14.9%と相変わらず健全で、堅調な業量の伸びと 19 億ドルの普通株式配当を支えています。

「第 1 四半期決算が示すように、RBC は今日の成長、および長期的な株主価値の創出のために適切な戦略を採用しています。バランスシートの健全性、リスク管理への慎重なアプローチ、そして多角的なビジネスモデルに支えられ、顧客主導の堅調な業量の伸びを達成したほか、経費管理を引き続き重視しました。HSBC カナダの買収予定の完了を目指す中、当行は依然として、新しい差別化されたバンキング・エクスペリエンスの提供を通じ、顧客に信頼されるアドバイザーとなることに重点を置いています。」

——デーブ・マックイ、ロイヤル・バンク・オブ・カナダ 頭取兼最高経営責任者

2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 1 四半期の比較

2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 4 四半期の比較

財務報告ベース：

- 純利益 35.82億ドル ↑ 14%
- 希薄化後EPS 2.50ドル ↑ 12%
- ROE 13.1% ↑ 50 bps
- CET1比率¹³ 14.9% ↑ 220 bps

- 純利益 35.82億ドル ↓ 9%
- 希薄化後EPS 2.50ドル ↓ 9%
- ROE 13.1% ↓ 180 bps
- CET1比率¹³ 14.9% ↑ 40 bps

調整後ベース¹⁴：

- 純利益 40.66億ドル ↓ 5%
- 希薄化後EPS 2.85ドル ↓ 6%
- ROE 14.9% ↓ 230 bps

- 純利益 40.66億ドル ↑ 8%
- 希薄化後EPS 2.85ドル ↑ 8%
- ROE 14.9% ↑ 70 bps

パーソナル&コマーシャル・バンキング部門

純利益は 20.61 億ドルと、前年同期の実績から 0.65 億ドル、率にして 3%減少しました。PCL の拡大と非金利費用の増加が主な要因でした。これらの要因は、カナダ銀行事業の預金で 9%増（個人預金の 11%増を含む）、融資で 5%増（2ケタ成長となった企業向け貸し出しの 14%増、クレジットカードの 13%増を含む）という業量の平均伸び率と利鞘拡大を背景に純金利収入が増えたことによって一部相殺されました。

前四半期に比べると、純利益は PCL の拡大を主因に、0.30 億ドル、率にして 1%減りました。PCL の拡大は、非金利費用の減少、カードサービス業務の増収、およびカナダ銀行事業の業量の 1%の平均伸び率と利鞘拡大を映した純金利収入の増加によって大部分打ち消されました。

ウェルスマネジメント部門

純利益は 6.06 億ドルで、前年同期の実績から 2.24 億ドル、率にして 27%減少しました。米ウェルスマネジメント事業（傘下の地方銀行シティー・ナショナルを含む）で当四半期に税引前で 1.59 億ドル（税引後で 1.15 億ドル）という FDIC 特別保険料の負担が発生したことなどが響きました。手数料収入に比例する変動報酬の伸び、シティー・ナショナルの経営インフラへの継続投資などを反映した人件費および専門家報酬の増加、そして純金利収入の減少も減益要因となりました。これらの要因は、相場上昇と純販売を反映した手数料ベースの顧客の資産拡大によって減殺されました。

前四半期との比較では、純利益は 3.91 億ドル増加しました。前四半期の決算に関連会社の持分の減損に関する特別項目や米ウェルスマネジメント事業（シティー・ナショナルを含む）における法務引当金の影響が反映されたことに対する反動が増益の背景にありました。こうした要因は、上述のように当四半期に発生した FDIC 特別保険料の負担によって一部打ち消されました。米ウェルスマネジメント事業（シティー・ナショナルを含む）の業績には、前四半期に正常債権で貸倒引当金の繰り入れが生じたのとは対照的に、当四半期は戻し入れが見られた影響も含まれていました。

¹³ この比率は OSFI のバーゼル 3 CAR ガイドラインに従い、CET1 を RWA で除して計算されています。

¹⁴ これらは GAAP に基づかない財務指標です。会計調整を含む追加の情報につきましては、本決算リリース（英語版）3~5 ページの「主要な業績指標と非 GAAP 財務指標」のセクションをご参照ください。

インシュアランス部門

純利益は 2.20 億ドルと前年同期の実績から 1.53 億ドル増加しました。IFRS 17 への移行に備えたポートフォリオのポジション調整で好ましい投資パフォーマンスが実現したことに伴う保険料運用実績の改善などが背景にありました。当四半期はまた、良好な市場環境も追い風となりました。なお、前年同期の業績は、当行が資産・負債ポートフォリオを IFRS 17 に基づいて管理していなかったため、完全に比較可能ではありません。

前四半期に比べると、純利益は 1.23 億ドル増えました。前四半期の保険サービスの業績に年に 1 度の数理計算上の前提条件見直しが不利に作用した影響が含まれていたためです。保険料運用実績は、IFRS 17 への移行に備えたポートフォリオのポジション調整で好ましい投資パフォーマンスが実現したことなどから改善しました。なお、前四半期の業績は、当行が資産・負債ポートフォリオを IFRS 17 に基づいて管理していなかったため、完全に比較可能ではありません。

キャピタルマーケット部門

純利益は 11.54 億ドルで、前年同期の実績から 0.87 億ドル、率にして 7%減少しました。グローバルマーケット事業が前年同期の実績が好調だった反動で減収となったことや、PCL の拡大などに足を引っ張られました。これらの要因は、利益構成の変化を反映した税負担の減少によってある程度相殺されました。

前四半期に比べると、純利益は、1.67 億ドル、率にして 17%増加しました。大半の地域で債券関連収益が増えたことなどによるグローバルマーケット事業の増収が主因でした。こうした要因は税負担の増加によって減殺されました。

コーポレートサポート部門

当四半期は 4.59 億ドルの純損失でした。税引後で 2.18 億ドルの取引および統合費用の影響、そして税引後で 2.07 億ドルという期末資本変動の管理の影響などが背景にありました。いずれも HSBC カナダの買収予定に関連しており、特別項目として処理されました。

前四半期は 5.49 億ドルの純利益でした。繰延税金調整に関連した 5.78 億ドルの特別項目、および他の税金関連項目の好影響が主因でした。これらの要因は、特別項目として処理された、HSBC カナダの買収予定に関する税引後で 1.67 億ドルの取引・統合費用の影響によって一部打ち消されました。

前年同期は 11.31 億ドルの純損失でした。主として、特別項目である CRD および他の税金関連調整の 10.50 億ドルの影響に起因しました。資産・負債管理業務や残余未配分項目も純損失につながりました。

自己資本比率、流動性、および信用の質

自己資本比率——2024 年 1 月 31 日時点では、CET1 比率¹⁵は 14.9%と前四半期の水準から 40bps 上昇しました。正味内部資本生成や、その他の包括利益 (OCI) に公正価値を組み込む調整の好影響、(株主が保有株式の配当金を現金で受け取らず自動的に再投資する) DRIP の下での株式発行などを反映しました。これらの要因は (外国為替を除く) RWA の拡大や規制アップデートの正味の影響によってある程度打ち消されました。

流動性——2024 年 1 月 31 日に終了した四半期は、平均 LCR¹⁶が 132%で、金額に換算するとおよそ 940 億ドルの余剰になりました。これに対し、前四半期は 131%で、約 910 億ドルの余剰でした。平均 LCR¹⁶が前四半期の水準からほぼ横ばいを維持したのは、ホールセール資金調達や預金の増加がオンバランスシート証券や融資の伸びによっておおむね相殺されたためです。

2024 年 1 月 31 日時点の安定調達比率 (NSFR)¹⁷は 113%で、金額に換算するとおよそ 1,120 億ドルの余剰になりました。これに対し、前四半期は 113%で、1,090 億ドル程度の余剰でした。NSFR が前四半期に比べてほぼ横ばいにとどまったのは、融資や証券金融取引のための資金需要の減少が証券に関する資金需要の増加によってほぼ相殺されたためです。

信用の質

2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 1 四半期の比較

合計 PCL は前年同期の水準から 2.81 億ドル、率にして 53%拡大しました。パーソナル&コマーシャル・バンキング、キャピタルマーケット両部門の繰り入れ増加などを反映しましたが、ウェルスマネジメント部門の繰り入れ減少によって部分的に打ち消されました。貸出債権の PCL 比率は 12bps 上昇しました。不良債権の PCL 比率は 14bps 上昇の 31bps でした。

¹⁵ この比率は OSFI のバーゼル 3 CAR ガイドラインに従い、CET1 を RWA で除して計算されています。

¹⁶ LCR は OSFI の LAR ガイドラインに従って計算されています。さらなる詳細につきましては、当行の 2024 年度第 1 四半期株主報告書の「流動性と資金調達リスク」のセクションをご参照ください。これらは GAAP に基づかない財務指標です。

¹⁷ NSFR は OSFI の LAR ガイドラインに従って計算されています。さらなる詳細につきましては、当行の 2024 年度第 1 四半期株主報告書の「流動性と資金調達リスク」のセクションをご参照ください。

正常債権の PCL は、0.40 億ドル、率にして 23%縮小しました。米ウェルスマネジメント事業（シティー・ナショナルを含む）で当行のマクロ経済予測の改善などを原動力に、前年同期の引当金の繰り入れとは対照的に戻し入れが発生したことが主な要因ですが、信用の質の悪化によってある程度相殺されました。

不良債権の PCL は 3.28 億ドル拡大しました。カナダ銀行事業のポートフォリオとキャピタルマーケット部門で不動産および関連業界など向けの繰り入れが増えたことなどが背景にありました。

2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 4 四半期の比較

合計 PCL は前四半期の実績から 0.93 億ドル、率にして 13%拡大しました。パーソナル&コマーシャル・バンキング、キャピタルマーケット両部門の繰り入れ増加が主な要因でしたが、米ウェルスマネジメント事業（シティー・ナショナルを含む）の繰り入れ減少によって減殺されました。貸出債権の PCL 比率は 3bps 上昇しました。不良債権の PCL 比率は 6bps 高まりました。

正常債権の PCL は、0.61 億ドル、率にして 31%縮小しました。米ウェルスマネジメント事業（シティー・ナショナルを含む）で前四半期の繰り入れとは対照的に当四半期は戻し入れが発生したこと、ならびに、キャピタルマーケット部門の繰り入れ減少によるところが大きく、いずれも当行のマクロ経済予測の改善などが背景にありましたが、信用見通しの悪化によって一部打ち消されました。PCL の縮小はまた、カナダ銀行事業のポートフォリオにおける繰り入れ増加によってある程度相殺されました。当行のマクロ経済予測が前四半期の改善から悪化に転じたことなどが響きましたが、信用の質の悪化幅が縮小したことによって減殺されました。

不良債権の PCL は、1.46 億ドル、率にして 27%拡大しました。カナダ銀行事業のポートフォリオで繰り入れが増えたことが主因でした。

主要な業績指標と非 GAAP 財務指標

業績指標

当行の連結事業および各事業セグメントの業績は、純利益や ROE など複数の財務指標を使って測定、評価しています。ROE を含む一部の財務指標は、一般に公正妥当と認められる会計原則（GAAP）の下で意味が標準化されておらず、他の金融機関が開示する同様の指標と比較できない場合があります。

非 GAAP 財務指標

一部の非 GAAP 財務指標（非 GAAP 財務比率を含む）は、当行の継続的な経営成績をより色濃く反映し、経営陣の業績判断に対する読者の理解を促進するものと考えます。これらの指標は 2024 年 1 月 31 日までの 3 カ月間の財務実績を、対応する前年の期間や 2023 年 10 月 31 日までの 3 カ月間と比較しやすくします。非 GAAP 指標は、GAAP の下で意味が標準化されておらず、他の金融機関が開示する同様の指標と比較できない場合があります。

以下は当行が経営成績の評価で使う非 GAAP 指標についての説明です。

貸倒引当金繰入前・税引前利益¹⁸

貸倒引当金繰入前・税引前利益は、法人所得税（2024 年度第 1 四半期：7.66 億ドル；2023 年度第 4 四半期：（0.33）億ドル；2023 年度第 1 四半期：21.03 億ドル）と PCL（2024 年度第 1 四半期：8.13 億ドル；2023 年度第 4 四半期：7.20 億ドル；2023 年度第 1 四半期：5.32 億ドル）を差し引く前の利益（2024 年度第 1 四半期：35.82 億ドル；2023 年度第 4 四半期：39.39 億ドル；2023 年度第 1 四半期：31.33 億ドル）として計算されています。貸倒引当金繰入前・税引前利益を用い、当行は持続的な利益成長を創出する自身の能力を、信用サイクルの循環的な性質に左右される貸倒損失を除いて評価しています。

調整後ベースの業績

以下で述べる特別項目の影響や買収関連無形資産の償却を除いた調整後ベースの業績と一部の財務指標および財務比率を提供することは、業績をそれ以前の期間と比較しやすくし、根底にある事業のトレンドを読者がよりの確に評価できるようにするものと考えます。

すべての報告期間における当行の業績は以下の特別項目について調整されました：

- HSBC カナダの買収予定に関連した取引および統合費用。

2024 年 1 月 31 日までの 3 カ月間の当行の業績は以下の特別項目について調整されました：

- HSBC カナダの買収予定に関連した期末資本変動の管理。さらなる詳細につきましては、当行の 2024 年度第 1 四半期報告書の「主要な企業イベント」のセクションをご参照ください。

2023 年 10 月 31 日までの 3 カ月間の当行の業績は以下の特別項目について調整されました：

- 関連会社の持分の減損。
- 繰延税金調整：一部の債券の企業間売却に伴うシティー・ナショナルの実現損失に関連した繰延税金資産の認識を反映しています。

¹⁸2023 年 11 月 1 日からの IFRS 17 の導入の一環として、過去の期間の金額は以前に提示されたものから書き換えられています。これらの変更のさらなる詳細につきましては、当行の連結財務書類の注 2 をご参照ください。

2023年1月31日までの3カ月間の当行の業績は以下の特別項目について調整されました：

- CRD および他の税金関連調整：CRD、そして2022年度に適用されたカナダの法人税率の1.5%引き上げの影響を、繰延税金調整を除いて反映しています。これらの措置はカナダ政府の2022年予算で発表され、2023年度第1四半期に実行されました。

次の表は、調整後ベースの業績を当行の財務報告ベースの業績と照合し、提示された調整項目の計算を説明したものです。以下に示す調整後ベースの業績と財務指標は非GAAP指標です。

連結業績（財務報告ベースと調整後ベース）

| (1株当たり金額、実数、および百分率以外の単位は 百万カナダドル) | 下記の日付時点もしくは下記の日付までの3カ月間 | | |
|--|-------------------------|--------------------|-------------------|
| | 2024年 1月31日 | 2023年 10月31日(1) | 2023年 1月31日(1) |
| 総収入 | \$ 13,485 | \$ 12,685 | \$ 13,357 |
| PCL | 813 | 720 | 532 |
| 非金利費用 | 8,324 | 8,059 | 7,589 |
| 税引前利益 | 4,348 | 3,906 | 5,236 |
| 法人所得税 | 766 | (33) | 2,103 |
| 純利益 | \$ 3,582 | \$ 3,939 | \$ 3,133 |
| 普通株主に帰属する純利益 | \$ 3,522 | \$ 3,870 | \$ 3,087 |
| 平均普通株式数(千株) | 1,406,324 | 1,399,337 | 1,382,754 |
| 基本1株利益(ドル) | \$ 2.50 | \$ 2.77 | \$ 2.23 |
| 平均希薄化後普通株式数(千株) | 1,407,641 | 1,400,465 | 1,384,536 |
| 希薄化後1株利益(ドル) | \$ 2.50 | \$ 2.76 | \$ 2.23 |
| ROE(2) | 13.1% | 14.9% | 12.6% |
| 実効法人所得税率 | 17.6% | (0.8)% | 40.2% |
| 純利益(税引前)に影響を与える調整項目合計 | \$ 631 | \$ 537 | \$ 97 |
| 特別項目: HSBCカナダの取引および統合費用(3) | 265 | 203 | 11 |
| 特別項目: HSBCカナダの買収予定に関連した期末資本変動の管理(3), (4) | 286 | - | - |
| 特別項目: 関連会社の持分の減損(5) | - | 242 | - |
| 買収関連無形資産の償却(6) | 80 | 92 | 86 |
| 純利益に影響を与える調整項目の法人所得税合計 | \$ 147 | \$ 703 | \$ (1,032) |
| 特別項目: HSBCカナダの取引および統合費用(3) | 47 | 36 | 3 |
| 特別項目: HSBCカナダの買収予定に関連した期末資本変動の管理(3), (4) | 79 | - | - |
| 特別項目: 関連会社の持分の減損(5) | - | 65 | - |
| 特別項目: 繰延税金調整(3) | - | 578 | - |
| 特別項目: CRDおよび他の税金関連調整(3), (7) | - | - | (1,050) |
| 買収関連無形資産の償却(6) | 21 | 24 | 15 |
| 調整後ベースの業績(8) | | | |
| 税引前利益 - 調整後 | 4,979 | 4,443 | 5,333 |
| 法人所得税 - 調整後 | 913 | 670 | 1,071 |
| 純利益 - 調整後 | \$ 4,066 | \$ 3,773 | \$ 4,262 |
| 普通株主に帰属する純利益 - 調整後 | \$ 4,006 | \$ 3,704 | \$ 4,216 |
| 平均普通株式数(千株) | 1,406,324 | 1,399,337 | 1,382,754 |
| 基本1株利益(ドル) - 調整後 | \$ 2.85 | \$ 2.65 | \$ 3.05 |
| 平均希薄化後普通株式数(千株) | 1,407,641 | 1,400,465 | 1,384,536 |
| 希薄化後1株利益(ドル) - 調整後 | \$ 2.85 | \$ 2.65 | \$ 3.04 |
| ROE - 調整後 | 14.9% | 14.2% | 17.2% |
| 調整後実効法人所得税率 | 18.3% | 15.1% | 20.1% |

- (1) 2023年11月1日からのIFRS 17の導入の一環として、金額は以前に提示されたものから書き換えられています。これらの変更のさらなる詳細につきましては、当行の連結財務書類の注2をご参照ください。
- (2) ROEは普通株主に帰属する純利益を平均普通株主資本で除して計算されています。ROEは四捨五入する前の平均普通株主資本の実際の残高に基づいています。
- (3) これらの金額はコーポレートサポート部門で認識されています。
- (4) 2024年度第1四半期から、当行は非GAAP財務指標および財務比率を計算する際の特別項目にHSBCカナダの買収予定に関連した期末資本変動の管理を含めました。さらなる詳細につきましては、当行の2024年度第1四半期株主報告書の「主要な企業イベント」のセクションをご参照ください。
- (5) 2023年度第4四半期を通じ、当行は関連会社の持分の減損を認識しました。この金額はウェルスマネジメント部門で認識されました。
- (6) 買収関連無形資産の償却(ソフトウェアの償却を除く)、ならびに、のれんの減損が及ぼす影響を表しています。
- (7) CRD および他の税金関連調整の影響は、その他の包括利益で認識される2億ドルを含んでいません。
- (8) 2023年度第2四半期より、当行は非GAAP財務指標と非GAAP財務比率の調整項目にHSBCカナダの取引および統合費用と買収関連無形資産の償却を含めました。このため、比較される2023年1月31日までの3カ月間の調整後ベースの業績は、この非GAAP指標に関する当行の表示基準に適合させるため、以前に提示されたものから修正されています。2024年1月31日時点では、HSBCカナダに関して発生した累計の取引および統合費用(税引前)は6億ドルでした。現時点では、さらに9億ドルが発生し、合計およそ15億ドルに達すると推定されています。

ROEなどの主要な業績指標と非GAAP財務指標および財務比率に関する追加の情報は、当行の2024年度第1四半期株主報告書の「主要な業績指標と非GAAP財務指標」のセクションをご覧ください。

本件に関する問い合わせ先： 電話 03(4577)7000 コンプライアンス部